

教育事業等個別報告書

事業名	子どもを支援する青年ボランティア養成研修	
趣旨	独立行政法人青少年教育振興機構（以下「機構」という。）のボランティア（以下「法人ボランティア」という。）として一定レベルの資質を確保するとともに、青少年教育におけるボランティア活動を推進し、その活動機会の拡充を図るため、法人ボランティアの養成を行う。（補助指導者養成研修）	
期間	平成23年 12月10日（土）～11日（日）	
募集人員 （募集結果）	国立青少年教育振興機構でボランティアを希望する者30名 （参加者35名：高校生 28名，大学生6名，社会人1名）	
① 事業の特色		
<p>この事業は、主に当所で活躍する「ボランティアの養成」を目的に、当所の教材・教具を十分活用し、自信を持って活動できる青少年教育施設ボランティアを養成する研修である。</p> <p>研修内容は「こんな活動しています～自然の家でのボランティア活動」「今、求められている力」「青少年教育施設でのボランティア活動の意義」「青少年教育と青少年教育施設の役割」「第2回ファミリーミーティングプログラム運営補助」「もしものときの救命救急法」と題して青少年教育施設の利用や青少年教育施設におけるボランティア活動の理解及び活動スキルを学んだ。特に「第2回ファミリーミーティングプログラム運営補助」では、同時に行われていたファミリーミーティングでのナイトハイクやネイチャーゲームのプログラム運営補助として子どもたちに関わることができた。</p>		
		
【茨城大学 長谷川先生 の楽しい講義】	【ナイトハイクの 運営補助】	【ファミリーミーティング 家族との出会いの会】
② 事業の成果と課題		
<p><事業の成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地元高校からの参加者が多かったことから、今後、ステップアップして、全体指導者の資格を取得する可能性が大きいと考えられる。 ・ 他の教育事業を同時進行で行っていたため、そこに参加している家族を支援するOJTを実施することができた。このことによって、理論だけでなく、実践経験を積むことができた。 <p><事業の課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 東日本大震災避難所運営のため、春に実施する予定だったボランティア養成研修が延期となり12月に実施した。そのため、メリットとしては高校生の参加者が多かったこと、デメリットとしては大学生の参加が少なかったことがあげられる。バランスよく参加してもらうために、開催時期を十分に検討する必要がある。 		
③ その他		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 当所のボランティアとして自信を持って活動ができるよう、当所の知識や技能などが習得できるスキルアップの事業などを設定していく。 ・ さらに地元の高校生に積極的に声をかけボランティアの層を厚くしていく。 		

